



岩見沢市
開庁140年
市制施行80周年
稲穂を育て、豊かに。

受け継がれる^{おも}想い

岩見沢は今年、開庁140年、市制施行80周年を迎えます。これを記念し、岩見沢のこれまでのあゆみや岩見沢に関わりの深い人、出来事などを紹介します。

第9回 農業の歩み

開拓当初は自給自足を目指し雑穀や麦が栽培され、明治19年ごろから稲の試作が広まりました。寒さに強い優良品種の開発や栽培方法の改良に加え、明治35年の土功組合法の施行が造田の追い風となり、同年に川向土功組合が結成、現在の稔町から西川町にかけて用水路が整備された

ほか、各地の水利組合や土功組合が灌漑設備の整備維持に努めました。中でも、大正11年認可の北海土功組合が昭和5年に完成させた用水路は、現在の赤平市から南幌町まで延長約80キロメートルにおよび、市内を含む当時約10,000ヘクタールの農地を灌漑し、今日の米どころ誕生の礎となりました。また、北村、栗沢を中心に畑作経営を補うための酪農業が広まり、綿羊など副業としての畜産も盛んに行われました。

戦後は食糧増産を目的に農地開発が進められ、石狩川流域の広大な泥炭地は、明渠・暗渠による排水、索道や軌道を駆使した客土で水田へと変わりました。また大型機械の導入にあわせて圃場整備も進み、より効率的な生産が行われるようになりました。

幾度もの風水害や冷害を克服し、稲作を中心に発展した農業は、昭和45年からの米の生産調整と転作奨励、さらに対外的な農産物市場の開放により転換期を迎えました。そこで良質な米の生産を目指し、各地にライスセンターが整備されたほか、米に代わる小麦や大豆、玉ねぎなどの野菜、飼料作物、花卉など、多様な農産物を生産する経営形態へと変化していきました。

近年では、農家戸数や農業従事者の減少、消費者ニーズの多様化、温暖化を起因とした気象変動などの課題に的確に対応するため、輪作による生産性の向上、農業経営の法人化、農作業の効率化・省力化、コスト縮減に向けたスマート農業機器の活用など、持続可能な農業への取り組みが続いています。



索道客土
(昭和44年 大願地区)



自協ライスセンター竣工
(昭和43年)

人の動き (令和5年10月31日現在)

●住民基本台帳	人口	男	35,349人	(前月比 - 39)
		女	40,356人	(前月比 - 74)
	総数		75,705人	(前月比 - 113)
	世帯数		40,825世帯	(前月比 - 60)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977

ホームページ

<https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課広報係

広報 クイズ

プレゼント

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

年齢とともに心身の働きが弱くなり、手助けが必要となるフレイルは、バランスの良い食生活や適度な□□で予防しましょう。
□に当てはまる言葉をお答えください。

締め切り 12月20日(水)(必着)

応募方法

はがき(送付先左記)、市ホームページのフォーム、ファックス(0126-23-7731)、Eメール(pr@city.iwamizawa.lg.jp)で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報係へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。11月号の正解は2でした。

